

- 会議名 令和5年度 第3回八雲町社会教育委員会議
- 日時 令和5年11月29日(水) 午後6時30分～午後8時00分
- 場所 八雲町公民館 第1・2集会室
- 出席委員 12名  
間瀬龍生、池田忠寛、鈴木馨、吉田久子、小林元彦、小出政彦、河西大眞、  
前川伸也、小西雄一、小野礼子、寺田裕、長谷部修
- 説明員 教育長、社会教育課長、社会教育課長補佐、文化財係長、社会教育係主任、  
熊石教育事務所教育推進係主事

\*傍聴者なし

《会議録要旨》

・委嘱状交付

- 1 開 会 社会教育課長
- 2 あいさつ 八雲町教育委員会 教育長 土井 寿彦
- 3 自己紹介

4 説明事項等

- (1) 八雲町社会教委員の制度及び任務等について

○説明員より説明。

- (2) 八雲町社会教育委員正副委員長の選出について

○説明員より説明。

委員長に小林元彦委員、副委員長に小出政彦委員を選出して決定。

- (3) 八雲町社会教育委員の部会構成

○説明員より説明

事業部会に間瀬委員、鈴木委員、小林委員、河西委員、小西委員、小野委員、寺田委員の7名を選出。

団体育成部会に池田委員、吉田委員、小出委員、前川委員、掛村委員、手塚委員、長谷部委員の7名を選出。

#### (4) 関係機関及び各種団体への社会教育委員の選出状況について

○説明員より説明

### 3 議 題

#### (1) 令和5年度 八雲町社会教育課・熊石教育事務所所管事業実施報告について

○説明員より説明。

委員～郷土資料館で開催している企画展について、過去2年とも事業予算額と決算額に開きがあるのはなぜか。

説明員～自館で所有している資料を使用する、必要な印刷業務も自前で行うなど、少ない支出で済むように取り組んだ結果である。

委員～木彫り熊100周年記念事業について、進捗状況はどうなっているか。

説明員～PRポスターが完成し、配布を始めているところ。資料館案内看板（電柱広告）も完成し、町内5カ所へ設置している。

委員～木彫り熊100周年記念事業について、予定されている「特別展・講演会」の具体的な説明を求めたい。

説明員～特別展は令和6年2月下旬に、徳川義親と木彫り熊、徳川家との関りについての展示を予定。講演会は令和6年3月の開催を予定している。

説明員～3月の講演会については、八雲町で作られた木彫り熊が初めて出品された農村美術工芸品評会の開催日である3月26日を木彫り熊発祥の日と設定し、この期日で開催を予定しているところ。

委員～国際交流のつどいについて。留学生の受入先となるホストファミリーがおらず、実施できない状況があったとのこと。町広報で募集の記事は見たが、他にも募集の方策を考えられないか。

説明員～現状、町広報への募集記事掲載、過去に留学生を受け入れてくださったホストファミリーへの打診という方法で募集しているところ。ホストファミリーがいなくては事業の実施が困難であるため、次年度以降

も募集の方策を検討しながら進めていきたい。

**委員**～アイヌ文化財保存活用事業について、進捗状況はどうなっているか。

**説明員**～実施業者が決定し、現在はアイヌ関連スポット10カ所へ設置する説明看板づくりに取り掛かっているところ。令和6年2月には専用 Web ページも公開予定で、アイヌと移住者たちの関わりの歴史を広く伝えていく。

**委員**～各世代・対象別に様々な事業を実施している中で、各層に対しどのような課題を感じているか。

**説明員**～少年教育に関しては、毎年多くの児童が体験活動に参加している。一方で、例年同じ内容の事業を実施しているため、より多種多様な体験活動の機会を提供できるとよい。

青年・成人教育については、仕事にプライベートに多忙を極める世代のため、参加者獲得には困難を感じている。また、一連の学習を通してまちづくりに関心を持ってもらう、担い手になってもらうような仕掛けが必要な世代である。

高齢者教育については、コロナ禍で特に外出や交流を控えた方が多い世代でもあり、社会教育事業そのものも中止を余儀なくされるなどして、事業への参加が途絶えてしまう年が続いた。コロナ明けの現在においてもその流れから復活せず、参加者が激減してしまっている状況にある。

家庭教育事業については子育て世代を対象としており、青年世代と同様に仕事に家事、子育てにと多忙を極めている世代。参加者獲得には困難を感じている。子育て世代がどのようなことに関心を寄せているか、ニーズに応じた内容で事業や開催方法を検討するなど工夫を重ねている。

生涯学習事業については、子どもからお年寄りまでの多世代を対象にしており、マンネリ化を防ぐためにもさらに多様な学習機会を提供できるように、新たな企画も検討していく必要があると感じている。

**委員**～世代のニーズも考慮し、事業の見直しやリニューアルも進めていく必要があるのではないかと。新しいものに取り組むにしても、そのための余裕を持つおくことも大切。これだけ多くの事業を行っているが、知らない町民も多いのではないかと。町広報を見ない人も多いので、紙面以外の PR 方法も工夫していく必要がある。

**説明員**～事業の見直しについては検討していきたい。また、事業の PR については八雲町公式 LINE での配信も活用しているが、より多くの方に知って

もらえるよう、方法を工夫していきたい。

(2) 令和5年度 八雲町社会教育委員各部会等活動について

○説明員より説明。

◆質 疑 特になし

(3) その他

- ・説明員より、配布資料、各部会における部会長、副部会長選出の流れおよび来年1月開催予定の総務部会について説明。
- ・説明員より、12月開催予定の八雲町役場庁舎等建設に係る公民館利用団体説明会について説明。

4 閉 会